

わがまち紹介



太子町

奥久慈に輝く
日本一幸せな DAIGO

災害からの復旧・復興と 高齢者の移動手段確保

2019年1月に町長に就任し、その年の10月に太子町は令和元年東日本台風による甚大な被害を受けました。わたしがまず町長として取り組んだのは、この災害からの復旧・復興でした。その後も新型コロナウイルス感染症が流行し、その対応に追われましたが、職員と共に力を合わせることで、難局を乗り越えることができたと思っています。

一方、茨城県内の自治体で高齢化率が最も高いという本町の課題に対して、いかに町民の皆様に豊かに過ごしていただくかという視点でさまざまな施策を講じてきました。その一つが、高齢者の移動手段の確保です。

2021年10月1日には、1年間の実証実験を経て、AI乗合タクシー「たくまる」の運行を開始しました。乗降場所は路線バスや町民無料バスのバス停を中心に設定しました。開始当初は288か所でスタートしましたが、高まるニーズに対応し、現在は370か所で運用してい

ます。観光客にも利用していただけるように「観光おすすめ乗降場所」も設定し、利用者数は右肩上がりが増加しています。当初2台で運行をスタートした「たくまる」は2025年4月から4台体制となり、今後6台まで増やしていきたいと考えています。

加えて本町独自の取り組みとして、自動車を所有していない方や自動車を所有していても運転できない高齢者や障がい者等の移動を支援する「太子町タクシー利用助成事業」を実施しており、使用回数の上限はありますが、利用料金の4分の3を助成しています。

地域の防災力を強化

本町では、令和元年東日本台風の被災を受け、本町のさまざまな課題解決と新たなまちづくりを目指し、2021年3月に「太子町なかビジョン」を策定しました。

その中で定めたまちづくりの方針は、「防災力のあるまちづくり」「賑わいのあるまちづくり」「周辺と連携したまちづくり」の3つです。



株式会社筑波銀行
太子支店長
檜山 信邦

太子町長
高梨 哲彦 氏

筑波銀行は地域金融機関として、地域の皆さまとのつながりを深めるべく取り組んでいます。「支店長のわがまち紹介」は、筑波銀行の支店長が所在エリアの市町村をご紹介させていただくコーナーです。今回は茨城県太子町です。筑波銀行太子支店長 檜山 信邦が太子町長 高梨 哲彦氏にお話を伺いました。

1つ目の「防災力のあるまちづくり」の事業としてまず取り組んだのは、「役場庁舎の移転・新築」です。先の台風では旧庁舎が浸水してしまい、災害対応の拠点として機能しなくなっていました。その教訓から高台へ移転し、2022年9月20日から業務を開始しています。新庁舎は八溝山系のスギやヒノキなどの地域産材を多用する純木造建築が特徴で、防災拠点として災害に強く、すべての方にやさしい、バリアフリーに対応した建物となっています。

現在取り組んでいる大きな事業は「防災道の駅事業」です。「防災道の駅」とは、災害時の救援活動や復旧・復興活動などにおいて広域的な防災拠点機能を持つ道の駅で、選定されると国から重点的な支援が実施されるものです。2021年6月に「道の駅奥久慈だいが」が全国39か所の一つに選定されたことを受け、既存の道の駅の防災機能を強化するとともに、旧役場跡地および隣接地を嵩上げして「防災対応型観光交流施設」と「(仮称)まちなか防災スクウェア」の整備を進めています。竣工は2026年秋頃を見込んでいます。

そのほか、令和元年東日本台風による河川からの越水や内水氾濫の被害を教訓に、2022年10月、災害時に溢れた水をいち早く取り除く排水ポンプ車を導入しました。同じく排水ポンプ車を導入した常陸太田市とは合同訓練を実施しています。

また、地域の防災・減災のリーダーとなる防災士の育成にも取り組んでいます。令和元年台風19号で町民の避難行動に力を発揮したのが、消防と消防団による戸別の声かけだったことから、防災に関する知識を持つ防災士が増え、町内各地の身近な場所にいることが、町民の安全安心につながると考えたからです。そこで、受験しやすいように資格取得試験を町内で実施したり、研修用教材費や試験受験料、防災士認証登録料を町が負担する「防災士養成研修」を実施したりしています。

2025年4月には「大子町防災士ネットワーク」を設立、町内の防災士約130名が入会しました。このネットワークの活動により、地域内での情報共有や助け合いの体制が強化され、地域全体の防災意識がさらに高まることを期待しています。



「(仮称)まちなか防災スクウェア」イメージパース

賑わいのあるまちづくり

「大子まちなかビジョン」の2つ目のまちづくりの方針は、「賑わいのあるまちづくり」です。

本町には高校生たちが気軽におしゃべりする場所や高齢者などが集う憩いの場が不足しています。そこで、まちなかの活性化に向けた大きな事業として、大子駅前「交流拠点施設 Bright Base Daigo (B.B.D)」を整備しました。

この施設は木造3階建ての建物が話題を呼び、多くの方が視察に訪れています。1階に特産品の展示スペース、2階に交流・休憩スペース、3階に学習やグループワークにも利用できる多目的スペースを設けています。地域住民はもちろん、大子町を訪れる方々の交流の場として、情報交換や新たな交流が生まれる場となることを期待しています。

また、旧庁舎跡地に整備が進む「防災対応型観光交流施設」では現在、アウトドア用品メーカーの直営店や飲食テナントなどの出店を予定しています。防災拠点としてはもちろん、観光客など交流人口の受け皿になる「観光拠点」としての役割も担うことになります。

まちなかの活性化にはソフト面などで民間事業者の力が必要不可欠です。JR常陸大子駅前の中心市街地にある商店街でも、空き店舗を利用して事業を始め、継続する方が少なからずいらっしゃいます。本町ではそうした中小事業者の経営改善、あるいは創業支援のために、補助金なども含めて支援しています。

民間事業者に本町で事業を始めていただくには、こうした行政のサポートも必要ですが、まずは本町の良さを知っていただくことが大切だと考えています。

そこで企業説明会を開催したり、商工・観光イベントを通して町のPRをしたり、経済産業省関東経済産業局との人的な交流や事業を実施するなど、あらゆる機会を通して本町の魅力のPRに努めています。

交通網の整備で利便性を向上し 選択肢を増やす

「大子まちなかビジョン」の3つ目のまちづくりの方針は、「周辺と連携したまちづくり」です。災害発生時の交通手段や円滑で快適な移動、交流促進のための総合的な交通環境の拡充により、町内外の連携を強化することを目指します。

本町にとって重要な幹線道路である国道118号については、「袋田バイパス」が2023年12月2日に全線開通したことで、町民の利便性が大きく向上しています。一方で、袋田バイパス以南の道路については、まだまだ改善の余地があります。現在、茨城港常陸那珂港区から本町方面につながる「県北地域高規格道路」の構想があり、国道118号の機能強化を土台としつつ、その早期具体化について茨城県北地域の6市町で構成する整備

促進期成同盟会で要望を重ねています。また、茨城県北部海側から本町を通過し栃木県北東部へ抜ける高規格道路「北関東北部横断道路(仮称)」の構想もあります。これについては本町を含む茨城県4市町、栃木県5市町で設立した整備促進同盟会で要望しています。

これらの道路が実現すれば、広域の移動時間が飛躍的に短縮するため、救急や災害時での円滑な移動が実現できます。また、勤務先が多少遠方であっても自然豊かな本町に住むことができるようになり、転出の抑制や転入の促進につながると思います。加えて、周辺の観光地と連携して周遊を促進することも可能になるでしょう。

なお、現在の道路ネットワークでも本町と栃木県はとも近いです。本町単体事業として、常陸大子駅と栃木県的那須塩原駅を1時間10分で結ぶ「奥久慈お出かけ快速バス」を運行しています。新幹線の出発時間に合わせてダイヤを組んでおり、片道2時間40分で東京駅に着くことができます。料金は大人片道500円です。



完成した国道118号袋田バイパス

高齢者の健康維持・増進と 大子清流高校の魅力アップへ

高齢化率の高い本市にとって、高齢者の健康維持・増進の支援は喫緊の課題です。本町は人口約1万4千人と小規模な自治体であることから、地域と連携することで支援対象者が支援事業を利用しているかどうかを把握しやすいというメリットがあります。その情報を活用して事業を利用していただけよう促しています。

地元医師会との連携も欠かせません。新型コロナウイルス感染症の予防接種の実施・運営をきっかけに、行政と医師会との距離は一気に縮まりました。医師会の先生たちとは定期的に意見交換を実施しており、本町独自の事業も含め、ともに取り組みを進めていきたいと考えています。具体的には、带状疱疹ワクチンと高齢者肺炎球菌予防接種の定期接種の費用を全額補助するほか、妊婦の身体的負担軽減のために無痛分娩の費用を補助する事業を2025年度の新規事業としてスタートしました。

また、町独自で医師を育て、地域医療を担ってほしいとの思いから、将来町内の医療機関で医師として働く

意思を持つ医学部入学予定の大学生を対象に、修学資金を貸与する事業を行っています。

町の将来を担う若者たちへの支援事業の一環として、茨城県立大子清流高等学校を応援する事業を2024年から実施しています。主な取り組みとして、「地域みらい留学制度」と「大子町公営塾ことのぼ」の2つを行っています。

本校は自然豊かな環境のなか、「農林科学科」と「総合学科」の2学科で、一般学科はもちろん、福祉、農業、林業といった実践的な学びを得られることが大きな特徴で、特に林業を専攻できる高校は県内唯一です。

「地域みらい留学制度」は、そうした特長に魅力を感じる生徒を全国から募集する制度で、2025年4月に入学した約80人のうち、約1割の8人がこの制度を利用して入学しました。

「大子町公営塾ことのぼ」では、科目授業を通じた生徒の基礎学力の向上や、推薦入試なども視野に入れた柔軟な受験指導で希望の進路実現を目指しています。

こうした取り組みによる本校の魅力向上と町内中学校との連携により、町内外からの入学希望者の増加を図っています。

本校で教育を受けた人が、将来的に本町の発展を支え、まちづくりに参画するような循環ができれば、一番喜ばしいことだと思っています。



大子町公営塾ことのぼ

筑波銀行に期待すること

本町にとって地元の金融機関や郵便局は、単にお金や郵便の相談に行くところではなく、地域の住民の健康や安全を見守ってくれる大切な事業所だとわたしは思っています。

いざというときに行員や職員と住民の皆さんが力を合わせて地域の問題を解決するなど、地域が一丸となった「チーム」をつくるうえでも筑波銀行さんの存在は非常に大きいものがあります。

少人数の事業所への支援や高齢者の見守りなど、わたしたちは筑波銀行さんに大いに期待していますので、今後ともご協力をお願いいたします。

(取材日:2025年4月7日)

癒し

大子町

大子町には、豊かな自然が育んだ数々の味覚や町内に点在する温泉地、大自然をアクティブに楽しむ山登りなど、癒しのメニューが盛りだくさん！日帰りドライブはもちろん、温泉宿に宿泊して、その魅力を堪能してください。



登山・ハイキング

緑豊かな奥久慈の山に包まれた大子町には、大自然の魅力を全身で感じることでできる登山・ハイキングコースがいっぱいあります。初級者でも気軽に楽しめる山歩きコースから上級者向けの登山コースまで、レベルにあわせてコースをチョイスできます。

おすすめは、大子町の東南部に位置する男体山をめぐる「男体山・湯沢峡コース」、袋田の滝を中心としたハイキングコースの「箕輪・袋田・鶯の巣山コース」、落葉広葉樹の原生林と清らかな湧水群をめぐる「八溝山・大神宮山コース」の3つ。大自然の季節の移ろいを感じながら、町内の名所・景勝地、山頂の神秘的なたたずまいの神社などに会えます。



温泉

大子町には、茨城県を代表する温泉地「奥久慈温泉郷」があり、大きく「大子温泉」「袋田温泉」「月居温泉」の3つの温泉地に分かれています。そのうちの一つ、「大子温泉」は「美人をつくる湯」として知られ、全国から女性が訪れます。

大子温泉を気軽に楽しめるのが、日帰り温泉施設の「大子温泉保養センター 森林の温泉(もりのいでゆ)」。

内風呂、気泡湯、サウナ、水風呂、大露天風呂、うたせ湯の6種類があり、満天の星や雄大な山々を眺めながらゆったりと湯船に浸れば、旅の疲れも癒してくれます。6月の新茶の時期には「お茶風呂」、10月から1月にかけては「りんご風呂」など、大子の特産品を生かしたお風呂で季節感も味わえます。



味覚

自然豊かな大子町には数多くの特産品があります。ギュッとしまった肉質と濃い旨味が魅力の「奥久慈しゃも」、刺身や田楽など多彩な料理で独特のおいしさを味わえる「奥久慈こんにゃく」、約500年の歴史を誇り、濃い香りと渋み、深いコクが特徴の「奥久慈茶」など、枚挙にいとまがありません。

樹になったまま完熟させる「樹上完熟」で栽培する「奥久慈りんご」も代表的な味覚の一つ。みずみずしく甘みがたっぷりなのが特徴で、アップルパイをはじめ、りんごジュース、りんごジャム、りんごチップと加工品も充実しています。また、町内にはりんご狩りを体験できるりんご園が約40か所あり、9月中旬から11月下旬まで楽しめます。